

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473601068	事業の開始年月日	平成17年11月1日
		指定年月日	平成17年11月1日
法人名	医療法人社団 永和会		
事業所名	グループホーム清風荘		
所在地	(245-0018) 横浜市泉区上飯田町262番地		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和4年1月21日	評価結果 市町村受理日	令和4年6月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者・家族・職員の信頼関係を構築し、安心して快適な生活が送れるように配慮している。医療機関との連携を強化し十分な健康管理を行えるように努めている。また、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、予防策としての取り組みを重視し対応を継続している。
コロナ禍の中、引き続きサービスの質を落とさないようにも努めている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年3月29日	評価機関 評価決定日	令和4年5月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は相鉄いずみ野線「いずみ中央」駅または「ゆめが丘」駅徒歩10分、横浜市営地下鉄「下飯田」駅徒歩15分のところ。一駅で小田急線の駅に出ることが出来ます。幹線道路から少し入り、大きな農場や果樹園などに隣接した閑静な住宅地の一角にあります。建物は広い敷地に囲まれ、明るい2階建て2ユニットの事業所です。晴れた日は丹沢の山々や霊峰富士が臨める住環境です。

<優れている点>

理念を踏まえて、利用者の人格の尊重、利用者の立場に立ったサービスを提供し、優しさにあふれた笑顔に出会う事業所を目指しています。利用者は在宅時の延長と位置付け、食事準備の手伝い、洗い物など利用者各自の残存機能を活かした自らの役割の維持の支援に努めています。開設以来管理者をはじめ経験豊富な職員を擁し、利用者や職員相互の信頼関係も厚く、日々利用者に寄り添いサービスの向上に努めています。法人の母体は地元の医療機関で、日頃の往診医の支援の他、外来診療であっても緊急時には適切な医療の対応ができ、利用者、家族はもとより職員も常に24時間安心、安全な支援が来ています。

<工夫点>

職員は日常のケアの役割分担の他、おむつや薬、防災、虐待、ボランティア、行事など各「係り担当」を受け持ち、運営面にも全員参加で取り組んでいます。

rerukotom

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム清風荘
ユニット名	ひだまり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念・心掛けを掲示及び各職員の名札裏にも表示して、常に意識して処遇に取り組むようにしている。適宜確認している。	理念は開設時に独自に作られたものです。職員は優しさにあふれ、笑顔に会える事業所をモットーに理念の実践に努めています。理念は玄関に掲示し、名札と共に身に着けて職員と常に共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入している。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、イベント・ボラ活動も自粛し交流は、ほとんどなし。近隣の小学校とお手紙等のやりとりあり。他、年賀状のやりとり。	地域の情報は町内のニュースや地域ケアプラザとの交流などで得ています。コロナ禍の現況では外部との交流や傾聴ボランティア、フラダンス、大正琴などのボランティアの来訪も自粛中です。近くの神社への初詣は皆で実施しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	系列クリニックや近隣施設・行政窓口・地域住民からの相談に応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	自治会・民生委員・行政担当者・地域包括支援センター担当者と連絡・情報交換を行い、サービスの向上を図っているが、今年後は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、紙面開催で対応は継続している。	コロナ禍中では各委員との対面会議は中断しています。現在は2ヶ月ごとの内部の書面開催に留めています。期間中の活動状況や運営状況など議事録を各委員に送付し、情報の共有を図っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	所轄担当部署と必要に応じ連絡をとっている。市町村主催の連絡会には、出来る限り参加している。	運営推進会議の報告や介護認定の申請代行、ケースワーカーなどと連携を図っています。地域包括支援センターとは空き情報の交換や地域ケアプラザ主催の「泉サポートプロジェクト」と行事やイベントの企画紹介、行事車両の提供など交流を深めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の基準に沿って、また、身体拘束等防止委員会での話し合いからも全職員が周知・徹底化を図り、身体拘束行わないケアを実施している。	身体拘束等廃止の指針や研修会を通して周知しています。虐待防止と合同の身体拘束等防止委員会を定期的開催し啓蒙に努めています。職員は身体拘束の弊害について理解し、不適切な言動の事例があればユニット会議で振り返り、身体拘束のないケアに努めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の基準に沿って、また、身体拘束等防止委員会での話し合いからも全職員が周知・徹底化を図り、虐待防止に努めている。内部研修会を開催している。	研修や虐待防止マニュアル、身体拘束等防止委員会を通して周知徹底をしています。虐待の恐れの実例があればユニット会議で取り上げ、啓蒙に努め虐待のないケアに取り組んでいます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護外部研修参加は、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、参加できないが、後見人制度は活用した実績があり、準備や整備は出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な時間のとり説明を行っている。不明な点等については、適宜対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	所轄行政等への意見・不満・苦情等の申し立てが出来るようにしている。重要事項説明書に、その旨を記載している。苦情等は真摯に受け止め対応するようにしている。	コロナ禍では家族との面会は玄関先で行っています。家族とのコミュニケーションは電話や手紙で図っています。手紙には事業所の活動状況と利用者個別の心身の状況の報告を添えて送っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、職員会議を行っている。職員の意見を聞き、必要な改善を行っている。現在は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、紙面開催で対応は継続です。 また、軽費削減についても継続で対応中です。	個人面談の機会のほか、毎月のフロア会議や全体会議の中で職員の意見や要望、提案などを聞く機会を作っています。職員の行事やイベントの企画提案による誕生会や花見など事業所の運営に活かしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員処遇の向上を図るように努めている。職員の意見や職場環境などの整備に留意している。職員が向上心をもって勤務出来るように配慮をしている。	パート職員含む職員の業務の役割分担制を取り入れています。仕事の努力や成果は適正に評価しています。シフトの作成時は職員の事情や希望を反映し、有給休暇の取得も叶えています。休憩時間の確保や気分転換の場も提供しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、参加は自粛しているが、内部研修会等でスキルアップを目指している。個人面談も実施している。	コロナ禍により、外部研修が難しい現在は内部研修に重きを置いています。新人職員は3ヶ月間の現場研修を重視し、職員の育成を図っています。職員のモチベーションの向上に向けて資格取得支援もしています。資格取得の際の時間のサポートなどもしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設との連絡会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、参加出来ないが紙面やメール等で情報交換などしている。また、リモートでも連絡を取り合っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	話を十分に聴き、不安な点などの理解を心掛け、要望を可能な限り理解し、信頼関係の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	適宜、家族へ連絡を行い、サービス利用の状況を報告している。その際、利用者・家族のなどを確認しながら、話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	最初に本人及び家族の希望を聞き、2か月後に、再度、介護計画の見直しを行い、サービスの向上に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活での自立支援を促し、家庭的な環境づくりを行い、共同生活を営んでいる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	適宜、生活状況の連絡を行い、サービス提供状況を伝えている。現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、面会制限し、予防協力して頂いている。他、月1回の家族発送の際、1か月の医療・日常生活の様子等を送付してもらっている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、緊急必要時のみ外出とし、自粛対応している。電話対応はしている。他、面会制限マニュアルに沿って対応している。	馴染みの関係継続の大切さを職員は理解し、手紙や電話の継続の支援をしています。コロナ禍の前は友人や知人の来訪、家族の協力で墓参りや一時帰宅などがありました。将棋や裁縫、ハーモニカ、乳酸菌飲料の購入など趣味や嗜好の継続支援を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士が気軽に話し合えるような配慮はしている。共同作業や個々の交流が図れるようしている。ユニット間での交流は、現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、対応はしていない。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も継続的な関わりが必要なケースの場合は、状況把握に努め必要な情報提供し、支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の話や意向を聴き、出来る限り実現するように努めている。	アセスメントは自由な雰囲気のある居室で行っています。職員と利用者が1対1の散歩、入浴、夜間の場で把握します。意思表示の困難な利用者は表情や態度、笑顔などのサインで汲み取るようにしています。生活歴や家族の協力で把握することもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の暮らしを把握し、本人や家族から生活歴等の聞き取りを行っている。また、今迄の趣味等を生かせるようにケアプランにも取り込んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の生活スタイルを尊重し、心身の状態を日々、把握するように努めている。有している能力の維持を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画を日々、モニタリングし、毎月のケース会議において、評価及び再考している。コロナ禍で家族との対面は難しいので、電話のみになっているが、現状に即したより良い介護計画を作成し、サービスの提供を行っている。	介護計画作成を特に大事にしています。理念に沿った具体的なものとし、日々の介護記録は独自の様式を使用しています。職員間で情報共有してのケース会議、毎月の主治医との「ミーティング会」に活かし、家族からの要望も加味し、介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録を作成し、継続的な対応・支援が出来るようにしている。ケース会議等に反映し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	要望に対して必要な相談先を検討し、医療機関や連携施設・行政機関・地域との連携をとり、サービス向上を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の社会福祉協議会や自治会・民生委員などへの協力を依頼し、地域との連携を図っている。地域の一員としての存在を確立できるように努めている。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、支援が困難な状況ではある。ごみ収集場所の提供あり。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の往診やクリニックとの連携を図り、本人・家族の希望に沿った適切な医療を受けられるように努めている。	月に一度かかりつけ医が往診し、毎週看護師が訪問し健康管理をしています。利用者、介護職員とも安心して過ごせるようクリニックとの連携に努めています。歯科、皮膚科の往診もあり、安定した健康管理ができています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的な看護師訪問を行い、日常的な健康管理に努めている。適宜、受診や相談・指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との定期的な連絡や本人の状況確認を行っている。連携をとり、記録もしている。現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、面会制限されているため、電話でのやりとりが中心である。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた対応は、入居時の契約時に、終末期（ターミナルケア）は行わない事を説明している。他、重度化に伴う意思確認書は整備し、確認はしています。ターミナルケアマニュアルはあり。	急変時や 体調不良時には、家族、医師と相談し対応しています。日頃から用意している「持ち出し用フェイスシート」をもとに病院への入院や、特別養護老人ホーム、老人保健施設へ入所など利用者にとって最も良い方法を決めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時マニュアルの確認を備え、定期的に訓練を実施している。新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、外部研修参加は自粛している為、内部研修会で実施してる。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を年2回以上（夜間想定を含む）実施してる。今年度は1回は消防立ち合いにて実施している。災害対策備蓄品を整備している。他、非常階段に手すりを付けた。	防災訓練は、日中の火災や夜間を想定して年2回以上行っています。消防署からのアドバイスを受けて避難口の運用方法を改善するなど、実際に役立つ工夫もしています。災害用備蓄の食料には、長期保存可能な食品を備蓄しています。	近年災害対策として意識され始めた長期停電への対応として、非常用電源装置の導入が求められています。可能なかぎり早く導入できるように検討の加速化が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報取り扱い規定に沿って、情報の管理を徹底している。常に理念に沿って、人格・人権の尊重をしている。プライバシーの確保にも努めている。スピーチロックに関する内部研修会を行っている。	人格の尊重として呼びかけの言葉を大事にしています。基本は名前にさん付けですが、名前で呼ばれることを好む利用者など、個々の希望に合わせて対応しています。「楽しくハリのある生活」が送れるよう食器ふきやモップがけなど、できることを役割として持ち生活できるように支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が自らの意思表示が出来るような支援方法を行なうように努めている。必要に応じ、選択肢を用意するなど配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	習慣・生活スタイルや個々のペースを尊重し、支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々の好みや希望にあった身だしなみやおしゃれが、出来るように支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	旬の食材を取り入れ、季節が感じられる食卓を演出している。準備・片付けなども可能な限り、利用者と一緒に行うようにしている。また、食事形態（刻み・ミキサー等）も考慮し、提供もしている。	献立と食材は外部業者に委託し、調理は職員が交代で行なっています。毎週水曜日の朝はパン食にし、変化を楽しんでいます。包丁で食材を切るなど、利用者にはできる作業をすることで食に関わりを持っています。ラーメンを作るなどの特別食や、誕生会でも食が楽しめるよう工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	業者栄養士が立てた献立作成により、栄養バランスの管理を行っている。1日の水分摂取量を確認し、十分な水分確保を促している。身体状況に応じた食事形態も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを実施している。清潔保持に努めている。義歯の衛生管理も行っている。訪問歯科医師から口腔機能維持管理に関わる助言も受け、実施している。毎食前に口腔体操も実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた排泄誘導を行っている。排泄の失敗・失禁が軽減されるよう支援している。	利用者ごとの排泄パターンを把握して誘導しています。極力オムツを避け、個々の状態に合わせてパットやリハビリパンツを組み合わせて自立排泄を促しています。水分摂取や運動、また便秘薬なども適切に使用して便秘対策の対応もしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便・便秘状況を把握し、医師の指示や便通を促す飲食物の提供にも心掛けている。定期的な運動としてラジオ体操やリハビリ体操、嚥下体操、散策を日常生活に取り入れている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は週2回を基本とし、午後から夕食前にかけて、ゆっくりと時間をかけています。また、季節を感じられるように菖蒲湯やゆず湯等も取り入れています。	入浴は週2回、ゆっくり時間をかけて入浴できるよう支援しています。リラックスしてもらうとともに、職員と利用者の心の触れ合いの貴重な時間となっています。リフト浴により、体が不自由な利用者も湯船に浸かることができます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動を工夫し、夜間に十分な睡眠が取れるよう生活習慣に合わせた対応を行っている。午睡も取り入れてもいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員による服薬管理を実施し、誤薬防止にも努めている。また、薬に関する情報の共有を図り、取り扱いに十分に留意し支援している。適宜、看護師や医師へ本人の状態・疾病（症状）の報告をし、変化の確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	可能な限り、自身で出来ることは自身で行うように支援している。生活歴や趣味・希望を取り入れ、張りのある生活を送られるよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、外出は自粛は継続です。天気の良い日は、庭の散歩はしています。初詣には近くの神社へ行きました。	利用者が楽しみにしている買い物や外食はコロナ禍で控えています。感染予防対策を徹底し、三柱神社の初詣や俣野公園の花見などの外出支援を実施しています。天気の良い日には事業所の外周散歩や、ウッドデッキで日光浴もしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の管理能力を把握し、必要な管理・使用方法について検討し、実施している。管理や使用については、意思確認に留意している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	プライバシーに配慮し、本人から希望があった際に電話や手紙のやりとりが出来るように支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日の清掃や衛生管理に努めている。行事等の写真を掲載したり、季節ごとの演出をしている。 また、懐メロなどのDVDを流すなど居心地よく過ごす工夫もしています。 他、新型コロナウイルス感染症予防から加湿器、手指用アルコール噴霧器の設置、加湿用タオル・換気している。	リビングは寛げる生活スペースとなるよう配慮しています。行事の写真や利用者手作りの絵などを飾り、明るく楽しい雰囲気の居間となっています。ソファでは思い思いテレビを見たり新聞を読んだりしながら過ごしています。毎日の清掃では利用者も一緒にモップがけなどを行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを配置し、気の合う利用者同士が話せる環境を提供している。リビングから景色を眺めたり日当たりの良い場所では日光浴が行える共用空間となっている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の趣味や趣向を活かし、なじみの生活用品を使用することで、生活しやすく安心出来る環境づくりとなっています。	居室の備品はクローゼット・エアコン・ベッド・タンス・テーブル・イスとなっています。あとは利用者がそれぞれ懐かしい物、好みの物を持ち込んでくつろげる居室となっています。居室担当者制で身の回りの手伝いの他、モニタリングの担当もしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	周囲に手すりを配置し・必要な場所に名札や案内を付け、安全かつ自立した生活出来るように配慮している。		

事業所名	グループホーム清風荘
ユニット名	そよかぜ

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念・心掛けを掲示及び各職員の名札裏にも表示して、常に意識して処遇に取り組むようにしている。適宜確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入している。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、イベント・ボラ活動も自粛し交流は、ほとんどなし。近隣の小学校とお手紙等のやりとりあり。他、年賀状のやりとり。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	系列クリニックや近隣施設・行政窓口・地域住民からの相談に応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	自治会・民生委員・行政担当者・地域包括支援センター担当者と連絡・情報交換を行い、サービスの向上を図っているが、今年後は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、紙面開催で対応は継続している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	所轄担当部署と必要に応じ連絡をとっている。市町村主催の連絡会には、出来る限り参加している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の基準に沿って、また、身体拘束等防止委員会での話し合いからも全職員が周知・徹底化を図り、身体拘束行わないケアを実施している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の基準に沿って、また、身体拘束等防止委員会での話し合いからも全職員が周知・徹底化を図り、虐待防止に努めている。内部研修会を開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護外部研修参加は、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、参加できないが、後見人制度は活用した実績があり、準備や整備は出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な時間のとり説明を行っている。不明な点等については、適宜対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	所轄行政等への意見・不満・苦情等の申し立てが出来るようにしている。重要事項説明書に、その旨を記載している。苦情等は真摯に受け止め対応するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、職員会議を行っている。職員の意見を聞き、必要な改善を行っている。現在は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、紙面開催で対応は継続です。 また、軽費削減についても継続で対応中です。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員処遇の向上を図るように努めている。職員の意見や職場環境などの整備に留意している。職員が向上心をもって勤務出来るように配慮をしている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、参加は自粛しているが、内部研修会等でスキルアップを目指している。個人面談も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設との連絡会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、参加出来ないが紙面やメール等で情報交換などしている。また、リモートでも連絡を取り合っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	話を十分に聴き、不安な点などの理解を心掛け、要望を可能な限り理解し、信頼関係の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	適宜、家族へ連絡を行い、サービス利用の状況を報告している。その際、利用者・家族のなどを確認しながら、話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	最初に本人及び家族の希望を聞き、2か月後に、再度、介護計画の見直しを行い、サービスの向上に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活での自立支援を促し、家庭的な環境づくりを行い、共同生活を営んでいる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	適宜、生活状況の連絡を行い、サービス提供状況を伝えている。現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、面会制限し、予防協力して頂いている。他、月1回の家族発送の際、1か月の医療・日常生活の様子等を送付してもらっている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、緊急必要時のみ外出とし、自粛対応している。電話対応はしている。他、面会制限アニュアルに沿って対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士が気軽に話し合えるような配慮はしている。共同作業や個々の交流が図れるようしている。ユニット間での交流は、現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、対応はしていない。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も継続的な関わりが必要なケースの場合は、状況把握に努め必要な情報提供し、支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の話や意向を聴き、出来る限り実現するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の暮らしを把握し、本人や家族から生活歴等の聞き取りを行っている。また、今迄の趣味等を生かせるようにケアプランにも取り込んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の生活スタイルを尊重し、心身の状態を日々、把握するように努めている。有している能力の維持を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画を日々、モニタリングし、毎月のケース会議において、評価及び再考している。コロナ禍で家族との対面は難しいので、電話のみになっているが、現状に即したより良い介護計画を作成し、サービスの提供を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録を作成し、継続的な対応・支援が出来るようにしている。ケース会議等に反映し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	要望に対して必要な相談先を検討し、医療機関や連携施設・行政機関・地域との連携をとり、サービス向上を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の社会福祉協議会や自治会・民生委員などへの協力を依頼し、地域との連携を図っている。地域の一員としての存在を確立できるように努めている。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、支援が困難な状況ではある。ごみ収集場所の提供あり。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の往診やクリニックとの連携を図り、本人・家族の希望に沿った適切な医療を受けられるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的な看護師訪問を行い、日常的な健康管理に努めている。適宜、受診や相談・指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との定期的な連絡や本人の状況確認を行っている。連携をとり、記録もしている。現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、面会制限されているため、電話でのやりとりが中心である。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた対応は、入居時の契約時に、終末期（ターミナルケア）は行わない事を説明している。他、重度化に伴う意思確認書は整備し、確認はしています。ターミナルケアマニュアルはあり。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時マニュアルの確認を備え、定期的に訓練を実施している。新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、外部研修参加は自粛している為、内部研修会で実施してる。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を年2回以上（夜間想定を含む）実施してる。今年度は1回は消防立ち合いにて実施している。災害対策備蓄品を整備している。他、非常階段に手すりを付けた。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報取り扱い規定に沿って、情報の管理を徹底している。常に理念に沿って、人格・人権の尊重をしている。プライバシーの確保にも努めている。スピーチロックに関する内部研修会を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が自らの意思表示が出来るような支援方法を行なうように努めている。必要に応じ、選択肢を用意するなど配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	習慣・生活スタイルや個々のペースを尊重し、支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々の好みや希望にあった身だしなみやおしゃれが、出来るように支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	旬の食材を取り入れ、季節が感じられる食卓を演出している。準備・片付けなども可能な限り、利用者と一緒に行うようにしている。また、食事形態（刻み・ミキサー等）も考慮し、提供もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	業者栄養士が立てた献立作成により、栄養バランスの管理を行っている。1日の水分摂取量を確認し、十分な水分確保を促している。身体状況に応じた食事形態も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを実施している。清潔保持に努めている。義歯の衛生管理も行っている。訪問歯科医師から口腔機能維持管理に関わる助言も受け、実施している。毎食前に口腔体操も実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた排泄誘導を行っている。排泄の失敗・失禁が軽減されるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便・便秘状況を把握し、医師の指示や便通を促す飲食物の提供にも心掛けている。定期的な運動としてラジオ体操やリハビリ体操、嚥下体操、散策を日常生活に取り入れている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は週2回を基本とし、午後から夕食前にかけて、ゆっくりと時間をかけています。また、季節を感じられるように菖蒲湯やゆず湯等も取り入れています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動を工夫し、夜間に十分な睡眠が取れるよう生活習慣に合わせた対応を行っている。午睡も取り入れてもいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員による服薬管理を実施し、誤薬防止にも努めている。また、薬に関する情報の共有を図り、取り扱いに十分に留意し支援している。適宜、看護師や医師へ本人の状態・疾病（症状）の報告をし、変化の確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	可能な限り、自身で出来ることは自身で行うように支援している。生活歴や趣味・希望を取り入れ、張りのある生活が送られるよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、外出は自粛は継続です。天気の良い日は、庭の散歩はしています。初詣には近くの神社へ行きました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の管理能力を把握し、必要な管理・使用方法について検討し、実施している。管理や使用については、意思確認に留意している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	プライバシーに配慮し、本人から希望があった際に電話や手紙のやりとりが出来るように支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日の清掃や衛生管理に努めている。行事等の写真を掲載したり、季節ごとの演出をしている。 また、懐メロなどのDVDを流すなど居心地よく過ごす工夫もしています。 他、新型コロナウイルス感染症予防から加湿器、手指用アルコール噴霧器の設置、加湿用タオル・換気している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを配置し、気の合う利用者同士が話せる環境を提供している。リビングから景色を眺めたり日当たりの良い場所では日光浴が行える共用空間となっている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の趣味や趣向を活かし、なじみの生活用品を使用することで、生活しやすく安心出来る環境づくりとなっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	周囲に手すりを配置し・必要な場所に名札や案内を付け、安全かつ自立した生活が出来るように配慮している。		

2021年度

事業所名：グループホーム清風荘

作成日：令和4年 5月 30日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	全体	新型コロナウイルス感染症予防対策について（前年度の継続）	コロナ禍における現状に見合う予防・拡大防止の維持と継続	<ul style="list-style-type: none"> ・県・市などからの情報収集を基に、最新の予防対策を講じていく事の継続 ・当法人クリニックとワクチン接種等の連携強化の継続 	12ヶ月
2	全体	コロナ禍における日常生活や運営等について	コロナ禍における現状に見合うサービスの提供や運営（緩和に向けて）	<ul style="list-style-type: none"> ・面会について制限ある中での対人式で緩和していく ・ボラ活動の緩和で制限ある中での活動の再開 ・研修参加はオンライン式を推薦 	12ヶ月
3	35	災害対策において、非常用電源装置の導入について	高額な設備投資と費用が必要な為、法人レベルで検討し、早期に取り組み、設置が出来るようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・費用面での補助申請など法人事務局と連携し、対処していく ・設置場所や管理面など消防や業者と連携し、対処していく ・BCP策定においても検討していく 	12ヶ月以上
4					ヶ月
5					ヶ月